

伊勢の中世

第 3 0 0 号
伊勢中世史研究会
令和4年7月1日発行

事務局：〒515-2321 三重県松阪市嬉野中川町 1524-121 竹田憲治方

メール takeda@zvtv.ne.jp ホームページ <http://mietyusei.bakufu.org/>

令和3年度 コロナ禍における南勢地方の御頭神事等の実施状況について

令和2年度の新型コロナウイルスの感染拡大による御頭神事等への影響について、『伊勢の中世』第283号にて報告した。今回は令和3年度の実施状況について、昨年度と比較しながら筆者が見学できた各地の状況を報告したい。

各地の実施状況と昨年度との比較

例年であれば、1月～2月にかけて伊勢市等の南勢地域では、各地区で無病息災等を願って御頭神事等が開催される。しかし、新型コロナウイルスの感染防止のため、実施方法について各地で大きな変容が見られる。令和2年度および令和3年度の状況は、表1に示した通りである。表は、筆者が直接現地を見学したほか、関係者等からの情報を基に作成し、開催日時順に22地区の事例から作成した。なお、情報の確度が低いものも含まれており、一部誤りがある可能性もある。表では、「従来通り」、「規模縮小しつつ舞を実施」、「御頭を飾るのみ等」、「神職等による神事のみ」、「中止」、「不明」の6つに分類した。

令和2・3年度の実施状況を集計すると表2のようになる。二つの年度を比較すると、令和2年度は中止が5例もあったのに対し、令和3年度では3例と減少し、神事だけでも実施する事例および御頭を飾る事例が増加していることがわかる。これは、昨年度と比べて新型コロナウイルスの性質が研究され、感染対策の方法が一定程度確立されたことが大きい。また、各地区にとって当該神事がやはり重要で、「感染拡大が不安」な反面「何らかの形で今年こそは」実施したいという地区住民の葛藤の表れといえよう。

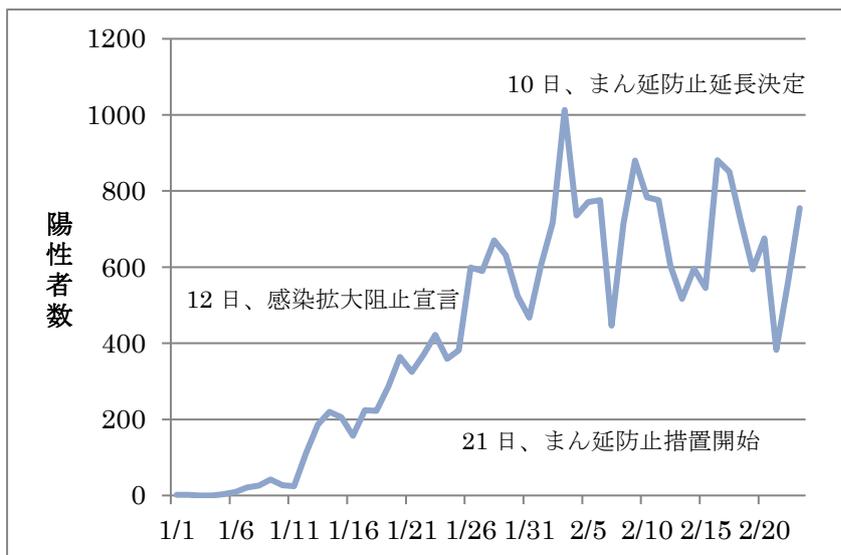
次に、三重県下の新型コロナウイルスの感染状況と実施状況をまとめた表3と表1の実施日を重ね合せると、当該神事の実施時期と重なるように年明け以降三重県下で急速な感染拡大があったことがわかる。開催日が早かった世木神社や茜社では従来通りの実施ができており、感染拡大がなければ他地区でも復活の可能性があったものと思われる。めまぐるしく状況が厳しくなる中で、いずれの形にせよいかに実施を実現したか、または断腸の思いで中止を判断せざるを関係者の葛藤が理解できる。

催行日	場所	R2	R3	備考	自治体	指定
1月8日	世木神社	?	○		伊勢市	
1月9日	有滝	×	■	へーパイのみ	伊勢市	
1月10日	茜社	■	○		伊勢市	
1月16日	上社	□	□	社頭での舞のみ、巡行なし	伊勢市	

1月16日	箕曲中松原社	□	□	社頭での舞のみ、巡行なし	伊勢市	
1月30日	山神	×	×		玉城町	県
2月5日	東大淀	△	■	飾るのみ	伊勢市	県
2月5日	下久具	□	×		度会町	県
2月6日	宮古	■	■	飾るのみ	玉城町	県
2月11日	一之瀬	×(■)	×(■)	南中村のみ内回り	度会町	県
2月11日	城田神社	×	■	飾る、大根配布	伊勢市	
2月11日	前野	×	×		明和町	町
2月11日	官舎神社	○	△?	神事のみ	伊勢市小俣	市
2月11日	掛橋	?	△?	神事のみ	伊勢市小俣	市
2月11日	須原大社	?	△	神事のみ	伊勢市	
2月11日	坂社	□	□	社頭での舞のみ、巡行なし	伊勢市	
2月11日	今社	□	□	社頭、各辻で舞のみ	伊勢市	
2月12日	棚橋	□	□	関係者のみ、規模縮小	度会町	県
2月12日	高向	×	△	神事のみ	伊勢市	国
2月12日	村松	△	■	飾るのみ	伊勢市	市
2月20日	田丸神社	□	□	規模縮小	玉城町	町
2月23日	有田神社	□	□	規模縮小	玉城町 伊勢市小俣	

○：例年通り、□：規模縮小等あるが舞があった、■：飾るのみ等、△：神事のみ、×：中止、?：不明

表1 令和2・3年度 御頭神事等の実施状況（色塗りの地区は筆者が直接見学したもの）



	R2	R3
○	1	2
□	8	7
■	3	6
△	2	5
×	5	3
?	3	0

表2：実施状況集計表

表3 御頭神事実施時の三重県下の感染状況（県外発表者は除く）

個別事例

以下、筆者が直接見学できた個別例をいくつか紹介したい。

□：規模縮小型 田丸神社

田丸神社では過去のコロナ禍でも、令和元年度は関係者のみで時期を遅らせて実施、令和2年度は関係者のみで氏子域が見渡せる田丸城で舞を行うなど工夫をしながら実施している。本年度も規模を縮小して宵宮では田辺地区の希望のあった地区では舞を行い、神事当日も氏子域の巡行や各辻での舞はなかったものの、神社境内での悪魔祓いの舞、三ツ橋地区での舞、お里帰り、水鏡、鼻あぶり神事は実施した。実施した行事は、田丸神社のお頭神事を構成する欠くことができない重要な要素といえ、コロナ禍によって奇しくも当該神事の本質的な価値が表出した。

■：へーバイのみ 有滝

有滝地区では、御頭を祀る八玉神社境内の獅子殿前に獅子頭が飾られ、地区住民の個別の参拝を受けていた。また、神楽師は呼ばずに神社関係者や地区の代表らによって神事が行われた後に、鳥居前で参集した地区住民に対し「へーバイ」のみが実施された。へーバイは御頭を被り、日本刀を持って切り祓う所作で、その後希望する地区住民は頭を噛んでもらい無病息災を祈願していた。なお、御頭さんは今年度、塗り直されたとのことであった。

■：御頭を飾るのみ 東大淀

東大淀地区では、昨年度は御頭を出さず宮司と地区役員のみで、地区内各所の祓いだけであったとのことであったが、今年度は御頭を出し飾ることになったという。

地区の佐登奈加神社境内の御加志良神社前に御頭さんが飾られ、地区住民の参拝を受けていた。また、厄年の住民の厄落とし行事は合せて行われていた。なお、東大淀では御頭さんに触れられるのは地元の神楽師のみで、舞はなかったが御頭さんを早朝に安置した後は神事が終了するまで社務所横の会所に詰めていた。

■：御頭を飾り読経のみ 宮古

宮古地区では、通常では梶原寺での舞の後に広泰寺への移動途中等で地区住民から個別に御供を受けるが、昨年度と今年度は当番により御頭さんが梶原寺に飾られ希望する地区住民が自由に参拝をする形が取られ、舞はなかった。ただし、広泰寺住職が梶原寺を来訪し、御頭さんが読経を受けた。また、例年は般若心経を広泰寺の山門前で受けるが、コロナ鎮静化を祈願して大悲心陀羅尼と消災吉祥陀羅尼に変更されていた。なお、石風呂やギッチョバイの行事も取りやめとのことであった。

×：中止 下久具

下久具地区では、昨年度は規模を縮小して実施していたが、感染の拡大を受け中止を判断した。当地区の神事は、御頭さんを祀る祠前と内城田神社遥拝所前と海蔵寺で行われるが、全て屋外で観覧者の制限ができないことが懸念されたとのことである。また、関係者が参集しての会食なども懸念材料となったようである。
(味噌井 拓志)

1



2



3



4



5



6



7



8



1 : 田丸神社、2 : 田丸神社 (三ツ橋)、3・4 : 有滝、5・6 : 東大淀、7 : 宮古、8 : 坂社